

平成30年3月期 第73期 業績概要 第2四半期

桂川電機株式会社

当第2四半期連結累計期間（平成29年4月～平成29年9月）におけるわが国経済は、政府による経済政策や金融政策を背景に企業収益や雇用情勢が改善するなど緩やかな回復基調で推移しましたが、個人消費は節約志向が強く、力強さに欠ける状況が続いてまいりました。また、海外経済の不確実性や欧州のテロ、北朝鮮の核開発を巡る緊迫した地政学リスクが高まる不安定な国際情勢などから、国内景気は依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。世界経済は、緩やかな景気回復が見られるものの、米国のトランプ政権の政策動向やその影響、欧州の政治・経済情勢、アジア地域における地政学リスクの高まりなどから、海外経済の不確実性は高まっており、先行きの不透明感が払拭されない状況で推移いたしました。

こうした中、当社グループにおきましては、販売面においては北米市場を中心に注力し、欧州市場の事業収益の改善に向けて販売体制を整備する等の活動を展開、開発及び生産面においては付加価値の高い新製品の開発と経費削減を進めてまいりました。

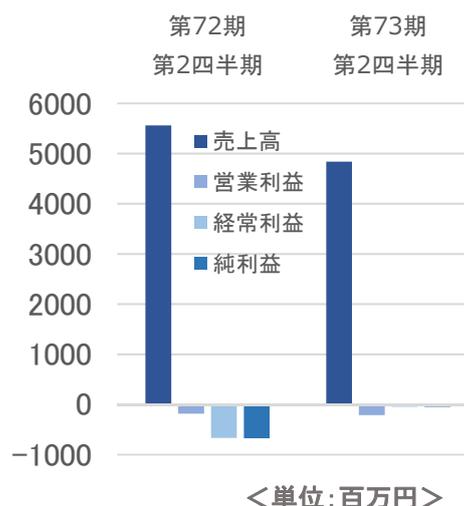
この結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の連結売上高は、モノクロ機の販売は回復基調で推移いたしました。新世代大判型カラープリンタとして好評を得たカラー機の販売は落ち着き、また、競合他社との企業間競争の激化や後継機の開発の遅れも重なったこと等から、48億36百万円と前年同四半期の55億60百万円に比べて約13%の減収となりました。

営業損益は売上げの減収の影響が大きく、2億12百万円の営業損失（前年同四半期は1億84百万円の営業損失）、経常損益は為替差益を計上したことにより損失は圧縮され、49百万円の経常損失（前年同四半期は6億67百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損益は、47百万円の損失（前年同四半期は6億74百万円の損失）となりました。

<単位：百万円>

項目	第72期 第2四半期	第73期 第2四半期
売上高	5,560	4,836
営業損益	△184	△212
経常損益	△667	△49
親会社株主に 帰属する 四半期純損益	△674	△47

連結業績概況



※取引通貨レートの数値は、各決算期末日のTTMLレート
【出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティング】

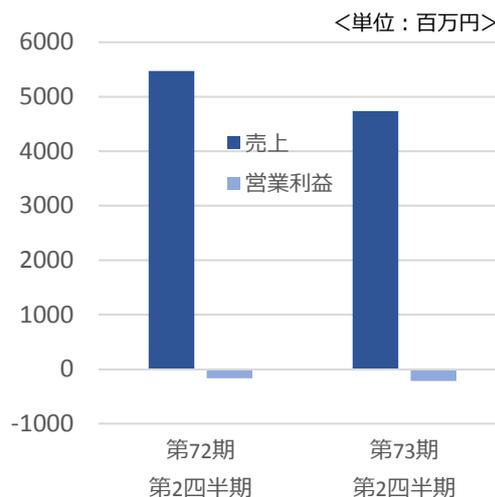
画像情報機器事業

画像情報機器事業の当連結会計年度の連結売上高は、前年度に比べて約13%減収の47億34百万円となり、営業損益は、2億17百万円の損失となりました。

台湾工場での生産及び現地材料調達比率を高めた事等によるコストダウン強化の効果はありましたものの、競合他社との企業間競争の激化が大きく影響した売上高の減少を補うには至りませんでした。

<単位：百万円>

	第72期 第2四半期	第73期 第2四半期
売上	5,471	4,734
営業損益	△169	△217



新世代大判型カラープリンタとして好評を博しておりますKIP800シリーズの高画質と使い勝手をそのままに、更に高速印字を可能とした高速カラーモデルKIP900シリーズを米国ルイジアナ州ニューオーリンズで開催された、SGIA 2017 (2017/10/10-12)において発表し、好評を得ており、後半の業績に貢献する事と期待しております。



今後成長が見込める新たな市場として、現在、シルクスクリーン、インクジェット、ハンドメイドが主流のタイルや食器等（セラミック製品）へのプリンティング技術において、当社が持つドライナー方式は、この業界に変革をもたらすことと確信を持っており、また、この巨大な市場は弊社にとっても将来の重要なマーケットの1つと捉えております。

2017年6月1日～4日、中国最大のセラミック展示会である『セラミックチャイナ2017(広州)』に以下の2機種の新製品を出展致しました。

KIP DDP480：デジタルデカルプリンタ（立体物へのイメージ作成用デカル紙プリンタ）

KIP CP2200：デジタルタイルイメージングシステム（タイルへ直接デジタルイメージを作成）